

8-1 新メンバーの受け入れ準備力強化のために

POINT

- 新メンバー受け入れ能力向上が従業員定着の第一歩
- 理解しやすい仕事の仕方・話し方を心がけよう

新メンバーの受け入れ準備

1. 新メンバー受け入れの心構え

チームには、入社(新卒・中途)、退社や人事異動による人の出入りがつきものである。経験や個性が異なる人が加わることになるので、その受け入れは負担になるが、新しいメンバーが早くチームに馴染み、早く戦力となるようにするには、受け入れる側の心構えと準備が大切である(図1)。

ところで、希望に満ちて入ってきたはずの新入社員が早期退職するケースが多い。その原因の1つに、職場が新入社員を受け入れるための体制が不十分だということがある。たとえば、職場に配属されたが、先輩たちが忙しそうにしている中で何をしてもよいかかわらず手持ち無沙汰になってしまいがちである、あるいは、指示された仕事に着手したがわからないことが出てきても聞く人がいない、調べる方法がわからない、といったことが疎外感・孤独感を招き、退社につながってしまうのだ。

その対策としては、直接業務を指導する先輩が根気よくフォローすることが望ましい。しかし、メンバーの中には、面倒見の良い人もいればそうでない人もいる。そこで、面倒見の良い先輩を選んで、新メンバーの相談役として指名することが効果的だ。コロナ禍の中、日常的にメンバー間の対話の機会が薄くなりがちなので、新メンバーにとって相談役の存在が心強いものとなるだろう。また、全員で気持ちの良いあいさつを心がけよう。

2. 理解しやすい仕事の仕方

職場では、それまでの経験や意見交換から決めた暗黙のルールや仕事の手順がある。たとえば、

備品の置き場所、加工の手順、事前承認の取り方などだ。暗黙のルールは、新メンバーには馴染むのに時間がかかるし、既存のメンバーにとっても人によって理解が微妙に異なることがある。

そこで、新メンバーがチームに早く馴染み、戦力となるようにするには、仕事の仕方が明確で、迷わずにできることが必要だ。この取組みは新メンバーだけでなくチーム全体にとっても意義がある。迷うことがなくなればミスが減るし、仕事の手順が共通の理解になっていけば行き違いがなくなるからである。

3. わかりやすい言葉と話し方

わかりやすい話し方を心がけることも大切である。中学生でも理解できるように話そうとする時、私たちは、相手が理解できるかどうかを配慮しながら、反応も見ながら、わかりやすい言葉を選ぶだろう。新メンバーに対しては、わかりやすく話すことが必要となる。時に、背景を含めて理解ができるよう配慮するようにしたい。

中学生の職場体験受け入れと企業力の関係

今日、中学生の職場体験が授業の一環で広く行われている。高校生・大学生の就活目的のインターンシップとは意味が異なり、中学生が将来の職業について考える機会をつくるのが目的である。企業側としては、地域の中学生に体験をさせてあげたいという気持ちで受け入れるのだが、文部科学省は、企業が多様な人材を「受け入れられる力を養う」ことも目的としている。中学生の職場体験とはいわば「中学生が仕事を邪魔しに来る」ことで、企業にとっては慣れない新人を「受け入れる」訓練になるのである(図2)。

図1 新メンバーの受け入れ準備（相談役の選任・理解しやすい仕事の仕方・わかりやすい言葉と話し方）

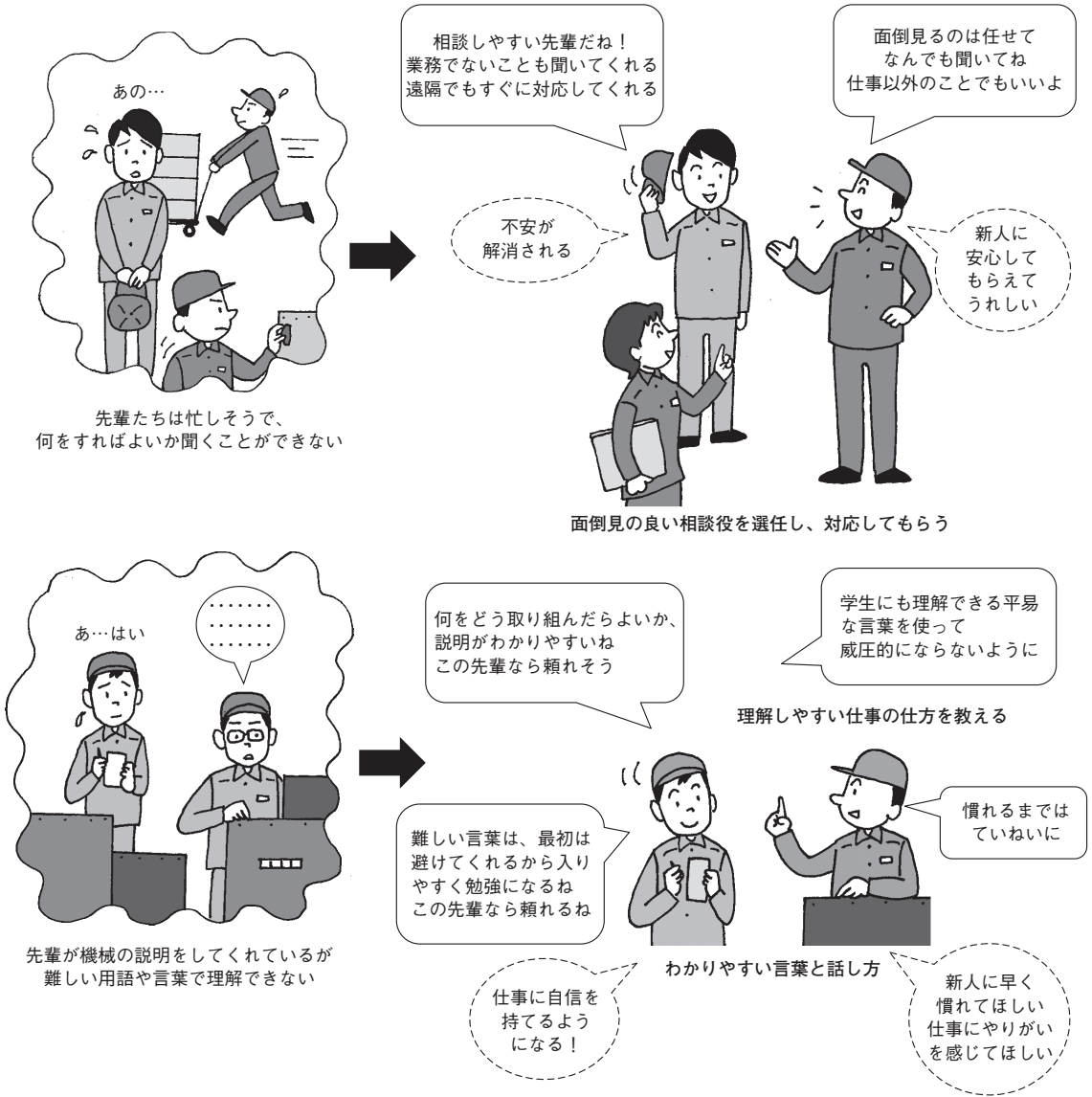


図2 職場体験の基本的な考え方（文部科学省による資料「生徒・家族にとって」は省略）

事業所にとって	地域にとって
中学生に対する見方の変化 ○次代を担う人材育成 企業の社会的役割の具現化 地域における企業価値の高揚 地域への貢献 ○職場の活性化 ◎社員教育の一環 キャリア教育の具体的理解	地域の中学生理解 地域が一体となって生徒を育てていこうとする機運の高揚 ○地域への理解促進 ○◎印は、受け入れ側の経験値を上げるため 文部科学省の担当者が本来の目的であると発言 特に◎が重要 文科省資料の「事業所」を企業と捉えると→

出典：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/001/001.htm

